

『もりおかの短歌』春の部

〈一般部門〉優秀賞十首

ふるさとの

やま なが うた よ

山を眺めて詩を詠む

かな とき うれ とき

哀しき時も嬉しき時も

盛岡市 赤坂 昌信

知事さんの

ちじ はる きんよ

春のマスクは菌寄せず

なんぶかたぞ でんとう がら

南部型染め伝統の柄

盛岡市 堀米 公子

波の瀬に

なみ せ おおもりはま たくぼく

大森浜の啄木は

うれ さと こ

憂いをさそう、里を恋いてか

北海道北斗市 有賀 久雄

ひとびと
人々の

おも あ

思いを浴びて うるまへと

ゆき いま もりおか はる

雪から今は 盛岡も春

沖縄県うるま市 前徳 薫

おだ はる もりおか

穏やかな春の盛岡

ふくつ えいきき もり

不屈なる英気を貫う

いしわ ざくら

石割り桜

盛岡市 河野 康夫

ふっこう

復興の

さんてつとつぼう なかはし

三鉄突風の中走る

たいりょうばた むか ひとびと

大漁旗で向える人々

盛岡市 関 容子

かんせんしゃ ふるさとほこ

感染者ゼロの古里誇りつつ

しきょう ねんわ

思郷の念湧く

いち きじ

よ市の記事に

青森県青森市 鈴木 操

ふきのとう

あさひ て

はるつ

朝日に照らされ春告げる

しゅん

さが

みこ だあさいち

旬を探しに神子田朝市

埼玉県さいたま市

片山

奈桜子

いつまでも

き

こごごころ

消えるはずのない恋心

いわてさん

わ

岩手山でも分かるはず

高橋 凜

君の活きし

きみ

い

まち

すがた

み

街の姿は見えねども

なかつ

なみ

いき

とも

中津の水音に呼吸を共にす

兵庫県丹波市

大野

節子

春の部へジュニア部門へ 優秀賞

該当なし

【講評】

一般部門

今の季節、もろ手を挙げて春を謳歌している…はずだった。感染者が無い盛岡でも感染拡大防止のために県外との往来も遠慮がちになり、今年はひっそりと「ふきのとう」のような思いで過ごしている。そのような中、詠み人たちは故郷の自然や魅力を部屋の窓から見つめ、あるいは思いを馳せながら、噛みしめているのだろう。盛岡人らしさとともに、今の時代を生き抜いてゆく逞しさに愛しさを感じながら、私はこの十首を選んだ。

令和二年六月選 春の部

投稿数 七十五首

選者 山本 玲子